

福井市林業・水産業プラン



平成28年2月
福井市

< 目 次 >

1. これまでの経緯	1
2. 取組と成果	1
3. 新たな計画の必要性	3
4. プランの基本方針	3
5. プランの計画期間	4
6. 基本方針実現のための政策－林業－	5
政策1 伐る森林整備の促進	
政策2 森林資源の利活用の拡大	
政策3 守る森林・林業の展開	
7. 基本方針実現のための政策－水産業－	11
政策1 つくり育てる漁業の推進	
政策2 水産物の販売強化	
政策3 継続的な漁業経営の推進	
8. プランの推進に向けて	17

《参考資料1》本市の森林・林業の概要

1. 森林の現状
2. 林業の現状

《参考資料2》本市の水産業の概要

1. 水産業を取り巻く環境
2. 生産の現状
3. 流通の現状
4. 消費の現状

1. これまでの経緯

本市では、平成 23 年 2 月に、「福井市林業水産業振興プラン（以下「林業水産業振興プラン」という。）」を策定し、林業及び水産業の振興に取り組んできました。

○林業水産業振興プランの概要

	計画期間	基本理念	目標
林業	平成 23 年度 ～ 平成 32 年度 (10 年間)	未来へ引き継ぐ 福井の ^も 森林づくり	1.健全な森林をつくる ～森林整備の推進～
			2.森林資源を使う ～木材の有効活用～
			3.森林に親しむ気運を高める ～森林・林業の重要性の普及啓発～
水産業	平成 23 年度 ～ 平成 27 年度 (5 年間)	福井の恵みを活かした 水産業の再興	1.力強い漁業生産力の向上を図る ～生産の向上～
			2.魅力ある福井市の水産物を創出する ～流通の促進～
			3.親しまれる魚食普及を推進する ～消費の拡大～

2. 取組と成果

(1) 林業の取組と成果

林業水産業振興プランの林業では、基本理念の実現を図るため、3つの目標を掲げ 14 施策を展開しました。一方、国では平成 24 年森林整備の方針を切り捨てから利用へと転換したところです。

- ①「健全な森林をつくる」においては、森林整備面積の目標を平成 27 年度 1,000ha/年としていましたが、平成 26 年度の実績は 611ha/年と目標達成が厳しくなっています。一方、国の政策転換もあり、搬出間伐を促進するために開設される作業道・作業路の年間実績は平成 22 年度の 26,974m から平成 26 年度の 98,809m へと伸びており、森林整備の作業効率や経費の削減に効果をあげています。
- ②「森林資源を使う」においては、搬出間伐材量の目標平成 27 年度 6,500m³/年に対して、平成 26 年度 22,789m³/年と目標を達成しました。これは、国の支援策の転換に加えて、ハーベスタやフォワーダなどの高性能林業機械の導入がすすんだことが目標達成に貢献しています。

- ③「森林に親しむ気運を高める」においては、市が開催する森林・林業関係のイベント参加者の目標を平成 27 年度 1,500 人/年としていましたが、平成 26 年度の実績は 863 人/年と目標達成が厳しくなっています。一方、市民が気軽に森林を散策できる場として、第 60 回全国植樹祭の植樹会場を「福井市木ごろの森」として整備し、平成 26 年度に開園しました。森林内を散策できる遊歩道があり、市民団体等が森を探検するイベントを開催し、親子連れが楽しんでいます。

(2) 水産業の取組と成果

林業水産業振興プランの水産業では、基本理念の実現を図るため、3つの目標を掲げ 11 施策を展開しました。

- ①「力強い漁業生産力の向上を図る」においては、漁業生産額の目標を平成 27 年度 480 百万円としていましたが、平成 26 年度の実績は 383 百万円と目標達成が厳しくなっています。一方、漁業生産額は平成 23 年度の 444 百万円をピークに低迷し続けていることから、稚魚放流や微粒砕氷機の導入等に支援しています。
- ②「魅力ある福井市の水産物を創出する」においては、新たな水産加工品の創出数の目標平成 27 年度 3 品目に対して、これまでに 6 品目の加工品を商品化し、目標を達成しました。さらに、集客力の高いイベントにおいて販売する際に来場者アンケート調査を行い、その結果を事業者にフィードバックするとともに、新商品開発に取り組む漁業者グループの支援を行いました。
- ③「親しまれる魚食普及を推進する」においては、魚介類の消費量の目標を平成 27 年度 41kg/年としていましたが、平成 26 年度の実績は 30kg/年と目標達成が厳しくなっています。一方、魚離れを食い止めるための取組みとして、漁協等が開催する魚食普及イベントや魚のさばき方教室等に支援しています。

3. 新たな計画の必要性

平成 27 年度まで取り組んできた林業水産業振興プランの計画期間が水産業について終了すること、また林業については国の政策転換により今回新たなプランを策定することとします。

国・県の林業水産業政策などへの対応を図りつつ、本市の特色を活かした林業水産業を推進するため、林業及び水産業について新たな「福井市林業・水産業プラン（以下、プランという。）」を策定します。

4. プランの基本方針

(1) 林業

「伐って使って守る森づくりの推進」

本市の人工林の 9 割を占めるスギ人工林は、植林されてから 35 年以上経過しているものが多く、資源の利用期を迎えています。また、豪雨等の自然災害に対する懸念から森林の多面的機能の持続的発揮に期待がされています。一方、木材価格の低迷等から所有者の山への関心が低下し、適切な森林整備が行われないなどの課題があります。

このような林業を取り巻く状況から、林業水産業振興プランの理念である「未来へ引き継ぐ 福井の森林づくり」を継承しながら、本プランでは「伐って使って守る森づくりの推進」を基本方針とし、人工林の間伐促進を中心に伐った木材の有効活用の促進や林業の担い手の育成等の施策に取り組んでいきます。

(2) 水産業

「持続可能な水産業の推進」

本市では定置網、底曳網、いか釣り、刺網等の漁業が営まれ、平成 26 年の生産量は 1,118 トン、生産額は 3.8 億円で、生産量、生産額とも減少傾向にあります。消費者に水産物を安定的に供給するためには、水産資源の適切な保全と漁業の経営安定が重要です。しかし、漁業経営は厳しく、操業コストの増大、漁業従事者の高齢化、後継者不足等の課題があります。

このような課題に柔軟に対応できる力強い産業への転換が求められていることから、本プランでは「持続可能な水産業の推進」を基本方針とし、つくり育てる漁業を中心に水産物の販売強化や漁業経営の基盤整備等の施策に取り組んでいきます。

5. プランの計画期間

このプランの計画期間は、平成 28 年度から平成 32 年度までとします。

6. 基本方針実現のための政策 -林業-

政策1 伐る森林整備の促進

方向性① 人工林の間伐実施

[施策]

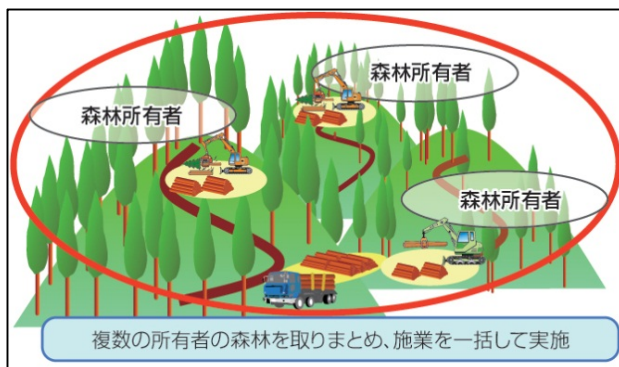
(1) 森林整備の促進

- 森林施業プランナー*1等と連携し、森林所有者に働きかけて集約化施業を促進する。
- GPSを活用して実施する境界確認を支援する。
- 景観向上や獣害対策のため、山ぎわでの除間伐を促進する。
- 森林の持つ二酸化炭素吸収能力を活かすため、間伐を促進する。

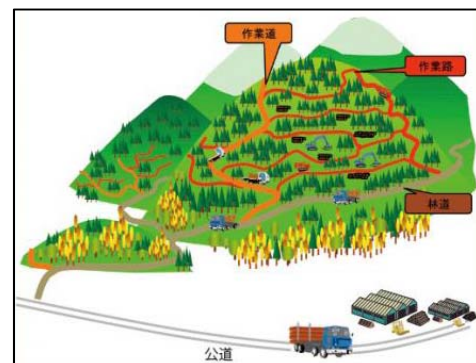
*1 森林施業プランナー：森林所有者に対して、森林の現況に即した路網計画や間伐方法などの森林施業の方針、利用間伐などの施業の事業収支を示した施業提案書を作成し、合意形成することができる技術者のこと。

(2) 生産性の向上

- 高性能林業機械の導入や林内路網の整備を促進する。
- 作業道の維持管理に関する経費の軽減を図る。
- 林業労働者の技能の向上を図る。



集約化施業の実施



林内路網の整備

方向性② 多面的機能の持続的発揮

[施策]

(1) 里山林*1の保全

- 里山活動団体等と連携し、人手が入らなくなった里山林の維持管理を促進する。

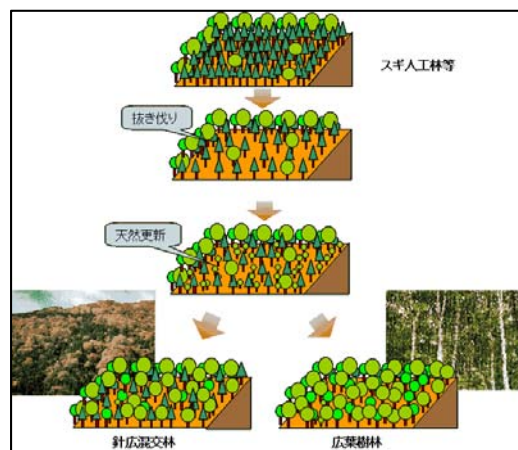
*1 里山林：集落近くに広がり、薪炭用材の伐採、落葉の採取等を通じて地域住民に継続的に利用されることにより、維持・管理されてきた森林のこと。

(2) 山づくりの多様化

- 森林の立地条件に応じて、長伐期化*1、針広混交林化*2を図る。
- 伐採跡地の再造林化の徹底を図る。
- 県と連携し、植林樹種の多様化を図る。

*1 長伐期化：従来の施業が 40～50 年程度で主伐することを目的としているのに対し、おおむね 2 倍に相当する林齢まで森林を育成し主伐を行うこと。

*2 針広混交林化：針葉樹の人工林を帯状又は群状に択伐し、その跡地に広葉樹を天然更新等により生育させ、針葉樹と広葉樹を混在させること。



針広混交林・広葉樹林への誘導

方向性③ 病虫害や獣害の防止

[施策]

(1) 病虫害対策の実施

- 松くい虫被害から松林を保全する防除事業を適切に実施する。
- 県と連携して、ナラ枯れ等の被害対策に取り組む。

(2) 獣害対策の実施

- シカの樹皮剥ぎ等の被害から樹木を保護するネット巻き等の対策を促進する。
- 福井市有害鳥獣捕獲隊と連携し、森林組合等によるシカの捕獲に取り組む。



松くい虫防除（薬剤の空中散布）



木の保護（ネット巻き）

政策 2 森林資源の利活用の拡大

方向性① 人工林資源の利用

[施策]

(1) 木材の搬出促進

- 間伐材を材質や形状に合わせて用途区分し、木材市場や集成材工場、バイオマス発電所等への搬出を促進する。
- 森林から利活用できる木材の伐採搬出を促すため、県と連携して、自伐林家等による山の市場*1への木材の持ち込みを推奨する。
- 持続的な資源利用に向けた植林を推奨する。

*1 山の市場：林地残材を収集し、薪や竹等を販売する場所

(2) 公共事業等での利用促進

- 公共建築物に使用する建築材だけでなく、公共事業に使用する土木資材等においても木材の積極的利用拡大に取り組む。
- 公共施設等で木と触れ合える環境整備を図り、木育*1を進めていくことで、民間における木材利用促進を図る。
- 建築者などの需要者側が望む材を供給できるよう取り組む。

*1 木育：子どもから大人までを対象に木製品等とのふれあいを通じて木の文化等へ理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動のこと。



森林資源の循環利用（イメージ）

【平成 27 年度森林・林業白書より】

方向性② 里山林資源の再活用

[施策]

(1) 資源の有効活用の促進

- 薪やペレット等の木質エネルギーの環境面での利点を PR し、薪やペレットストーブの普及を図る。
- きのこと生産のもととなるほだ木や炭の原木の搬出を促進する。
- 広葉樹材を使用して生産される原木しいたけや炭だけでなく、特用林産物*1の生産の維持を図る。

*1 特用林産物：一般に用いられる木材を除き、食用とされるきのこ類・木の実・山菜類などのほか、非食用である木炭・竹材・うるしなど、森林から生産されるものの総称のこと。



薪ストーブ



薪の生産



原木しいたけの生産



炭の生産

政策3 守る森林・林業の展開

方向性① 新たな担い手の確保

[施策]

(1) 林業に携わる人の育成

- 県等と連携し、新規就労者確保に向けた就労相談会の開催等の広報に取り組む。
- 緑の雇用事業*1等を活用した研修の受講を促進することによる新たな人材の育成や技能の向上を図る。
- 県等と連携し、自伐林家の育成に取り組む。

*1 緑の雇用事業：森林の仕事に就き、林業で必要な技術を学ぶため、林業事業者の新規就業者に対し、講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する制度のこと。



就労相談会のポスター



緑の雇用事業の研修



現地研修（材の搬出）



現地研修（間伐）

方向性② 山村地域の活性化

[施策]

(1) 裾野の拡大

- 森林の多面的機能の重要性や人工林の手入れの必要性を広める普及啓発活動に取り組む。
- 森林公園等の施設の広報及び活用に取り組む。
- 森林や林業への興味につながるイベントの開催に取り組む。
- 山や森林に馴染みのない地域の小学生や大人に対し、森林体験やグリーンツーリズムの情報を提供する。
- 市有林を活用した気軽に森林に親しめる場の整備を実施する。

(2) 里山活動の継続化

- 森林・山村多面的機能発揮対策事業*1の対象団体が実施する里山整備や体験活動の継続を促進する。

*1 森林・山村多面的機能発揮対策事業：地域住民が中心となった活動組織が実施する地域の森林の保全管理等の取組に対し、一定の費用を国が支援する事業



森の学習会



森のクイズラリー



竹細工体験



間伐の見学

7. 基本方針実現のための政策 -水産業-

政策1 つくり育てる漁業の推進

方向性① 栽培漁業の促進

[施策]

(1) 中間育成事業の支援

- 県等と連携し、生残率や成長率向上につながる効果的な育成手法を調査研究する。
- 中間育成施設の未利用期間の利活用を検討する。

(2) 放流事業の支援

- ヒラメ・マダイ・アワビ等の放流を支援する。
- 県等と連携し、放流に適した魚種の選定と効果的な放流手法を調査研究する。



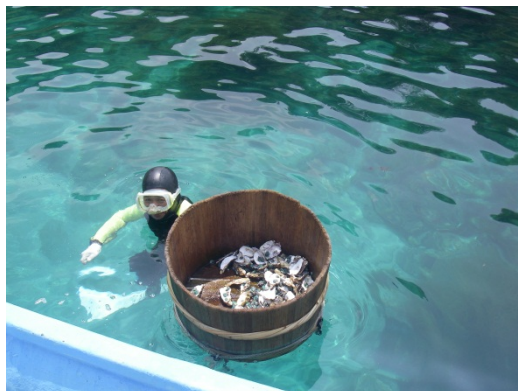
ヒラメの中間育成施設



ヒラメの放流



アワビの中間育成施設



アワビの放流

方向性② 漁場環境の改善

[施策]

(1) 漁場の整備

- 沿岸漁場の海底を耕耘することによる底質改善を支援する。
- 海藻が減少している海域において、藻場造成*1を行う。

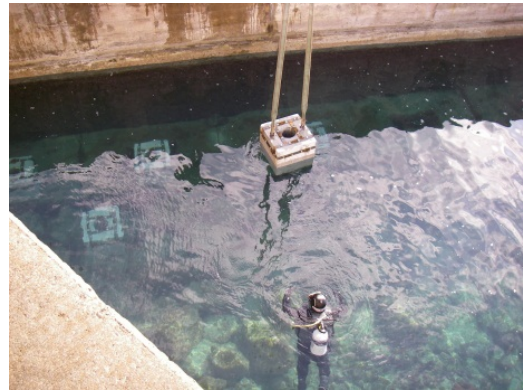
*1 藻場造成：人工的に新たな海藻群落をつくり出すこと。

(2) 海岸・河川の保全

- 海岸や河川の清掃活動を支援する。
- 地元住民団体と連携し、海岸漂着物の処理を行う。



海底耕耘



藻場造成



海岸の清掃活動



河川の保全活動

政策2 水産物の販売強化

方向性① ブランドの構築

[施策]

(1) 水産物の高付加価値化

- 魚体を傷つけず、保冷効果の高い微粒砕氷機を活用し、品質の高い水産物の出荷を促進する。
- 県や市場関係者と連携し、「活〆」*1や「神経抜き」*2、「規格統一」等の取組を促進する。
- 県漁連等と連携し、アカガレイを「越前がれい（仮称）」とするブランド化を促進する。
- 地元水産物を活用した加工品づくりを促進する。

*1 活〆：魚の血を抜いて、肉に血が回ることを防ぐ方法

*2 神経抜き：魚の神経を破壊、抜き取ることで鮮度を保つ方法



微粒砕氷機



漁協女性部が製造した水産加工品

(2) 水産加工品の販売促進

- 漁業者グループ等が取り組む新たな水産加工品づくりの計画や販路等の助言を行うとともに設備導入等を支援する。
- 市関係部局と連携し、“ふくい「一押しの逸品」*1”や“「ふくいの恵み」認定事業*2”への展開を推進する。

*1 ふくい「一押しの逸品」：福井市産の農林水産物の中から選定した29品目のこと。

*2 「ふくいの恵み」認定事業：市内事業者が製造した魅力ある加工品を「ふくいの恵み」として認定する事業

(3) 養殖の促進

- 県等と連携し、トラウトサーモンの量産化及び完全養殖実現のための支援を行う。
- バフンウニの養殖を支援し、「越前うに」*1の生産拡大を促進する。

*1 越前うに：バフンウニの塩漬け。日本三大珍味の一つとされている。



鷹巣沖で養殖されたトラウトサーモン



「越前うに」の加工

方向性② 魚食の推進

[施策]

(1) 魚食普及

- ホームページ等を活用し、イベントや調理方法等の情報を発信する。

(2) 市場との連携強化

- 市場関係者との連携により、地元水産物の販売強化を図る。
- 「ふくい鮮いちば」や「市場フェスタ」等を通じて親子が魚に親しむ機会を提供する。



越廼さかなまつり



地元水産物を使った料理教室

政策3 継続的な漁業経営の推進

方向性① 水産基盤の整備

[施策]

(1) 漁港施設等の整備

- 漁港施設等の整備及び補修を適正に行い、安全性、作業性の向上を図る。

方向性② 漁家所得の向上

[施策]

(1) 漁獲量の増大

- 県と連携し、効率的で生産性の高い漁業技術を検討する。

(2) 漁家民宿への誘客

- 県や観光協会等と連携し、漁業者が経営する民宿や旅館への誘客活動を支援する。

(3) 漁業コストの縮減

- 燃費の向上につながる低速航行や船底清掃等の取組を促進する。
- 省エネエンジンやLED集魚灯の導入等、操業コストを縮減する取組を促進する。
- 不漁等による損失を補償する漁業共済制度や燃油高騰時に補填金が支給される漁業経営セーフティネット構築事業への加入を促進する。



漁業者による船底清掃



LED集魚灯

方向性③ 新規就業者の確保

[施策]

(1) 担い手の育成

- 県や漁協と連携し、「ふくい水産カレッジ」の研修生受入れを支援する。
- 県外や市外からの新規就業者に対し、居住場所の斡旋等により定住を促進する。

方向性④ 漁村地域の活性化

[施策]

(1) 都市住民の受入れ支援

- 都市住民に対し、漁業体験や魚釣り教室等の情報を提供する。
- 都市住民との交流の場所として、漁港施設の有効な活用を図る。



定置網漁業体験



漁港での魚釣り教室



漁港内でのカヌー教室



放流体験

8. プランの推進に向けて

(1) 基本目標

プランの達成を図るため、林業及び水産業の政策ごとに基本目標を設定します。

	政 策	指 標	実績 (H26)	目標値 (H32)
林業	1.伐る森林整備の促進	間伐面積 (除伐面積含む)	385ha	累計 2,000ha
	2.森林資源の利活用の拡大	公共工事における 木材使用量	202m ³	累計 1,250m ³
	3.守る森林・林業の展開	イベント* ¹ 参加者数	2,182 人	累計 12,000 人
水産業	1.つくり育てる漁業の推進	目標放流数* ² を満 たす有用魚種数	2 種	累計 10 種
	2.水産物の販売強化	魚食普及イベント 開催数	3 回	累計 20 回
	3.継続的な漁業経営の推進	新規就業者* ³ 数	0 人	累計 5 人

*1 イベント：森林や林業の裾野の拡大につながる県や市が携わるイベント

*2 目標放流数：ヒラメ 50,000 尾、アワビ 27,000 個、マダイ 10,000 尾

*3 新規就業者：個人経営及び共同経営により漁業に従事する 45 歳未満の者

(2) 推進体制

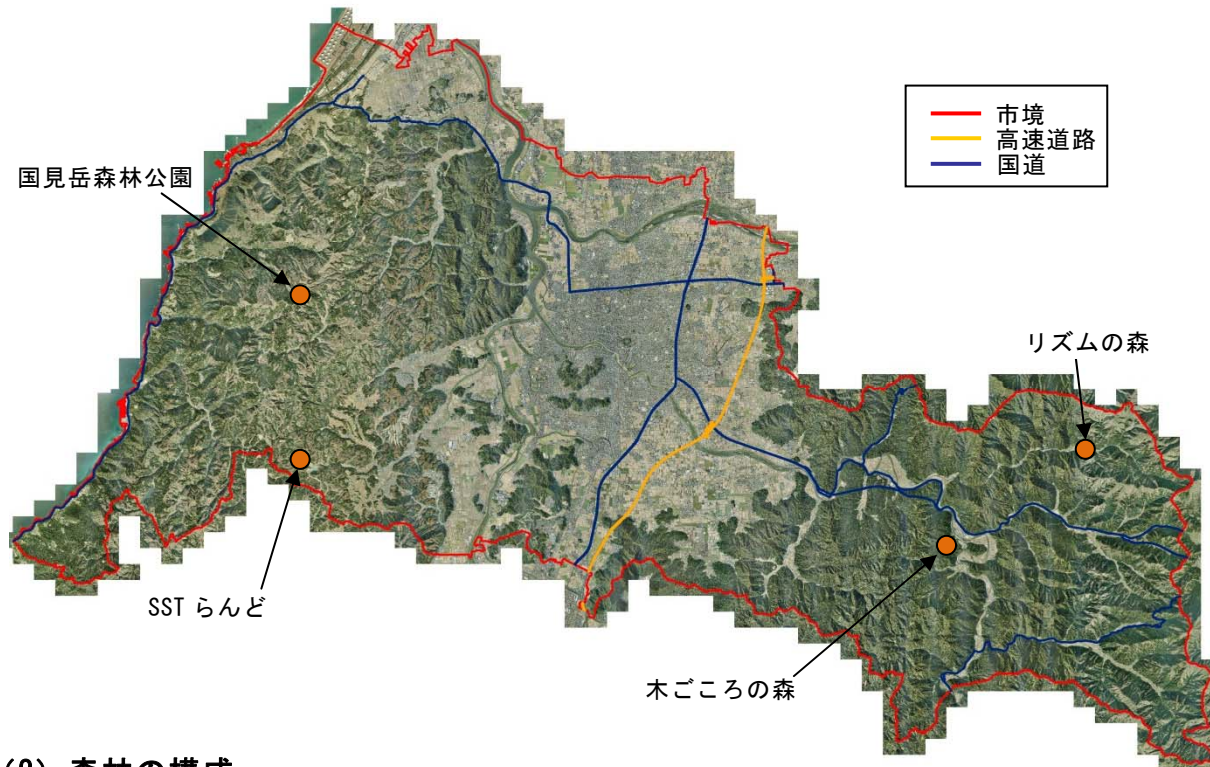
プランの基本目標の達成を図るため、県等関係機関と連携した取組を進めるとともに、福井市総合農政推進会議において進捗状況の把握を行います。

《参考資料 1》本市の森林・林業の概要

1. 森林の現状

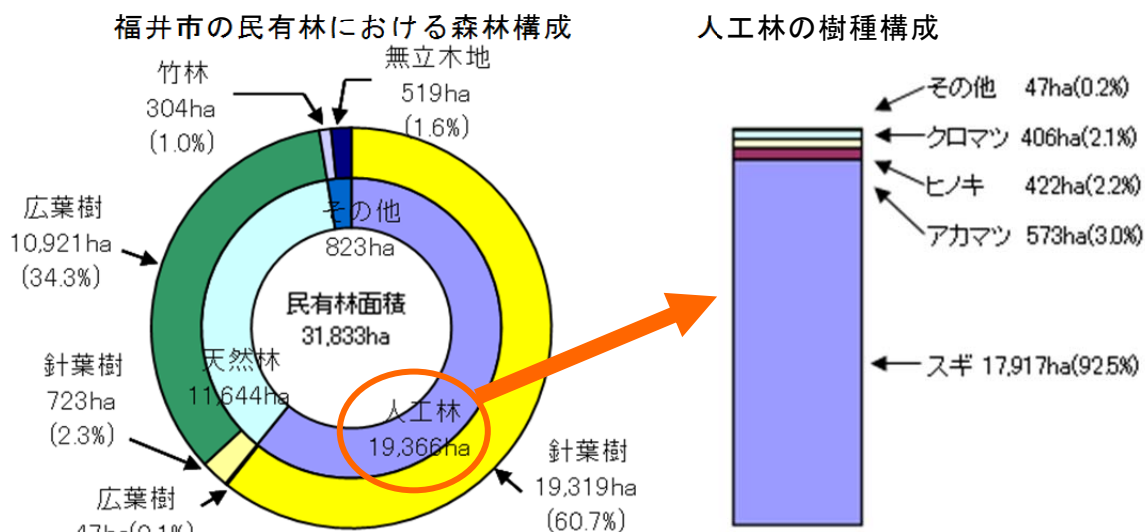
(1) 森林の面積

本市の総面積 53,617ha のうち森林面積は 31,910ha と 59.5% を占めています。



(2) 森林の構成

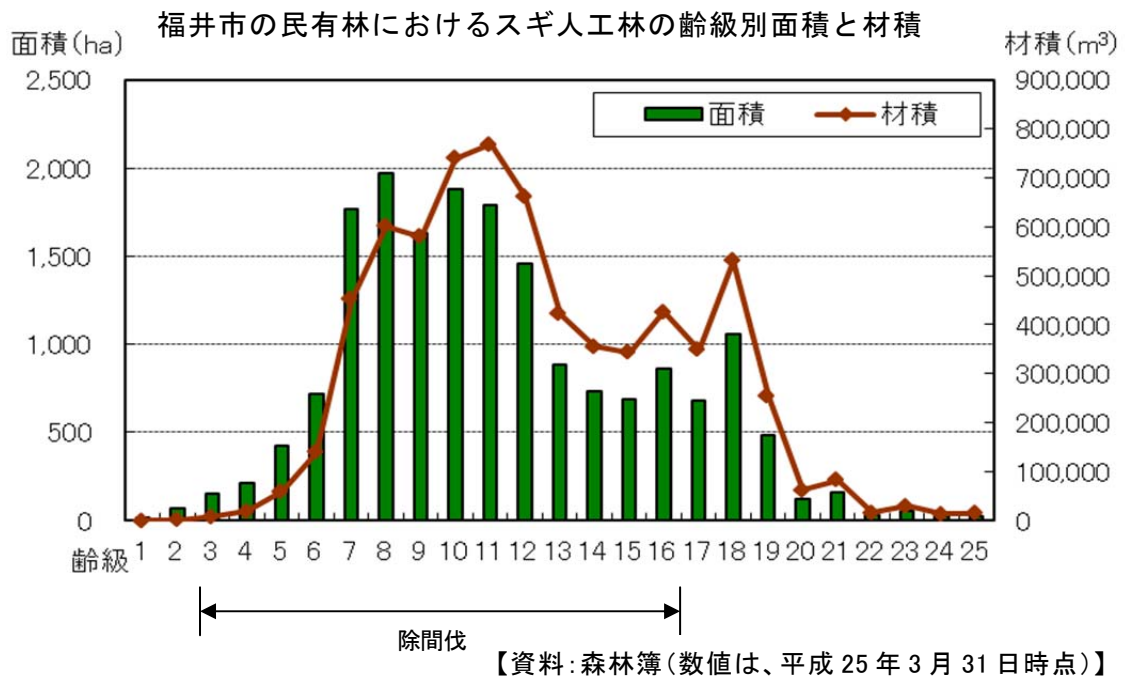
本市の森林のうち民有林*1 面積は 31,833ha で、総森林面積の 99.8% を占めています。また、民有林は林業生産活動が行われている人工林、広葉樹が林立する天然林等で構成されています。スギを主体とした人工林面積は 19,366ha と民有林面積の 6 割を占めています。



【資料：平成 25 年度 福井県林業統計書(数値は平成 25 年 3 月 31 日時点)】

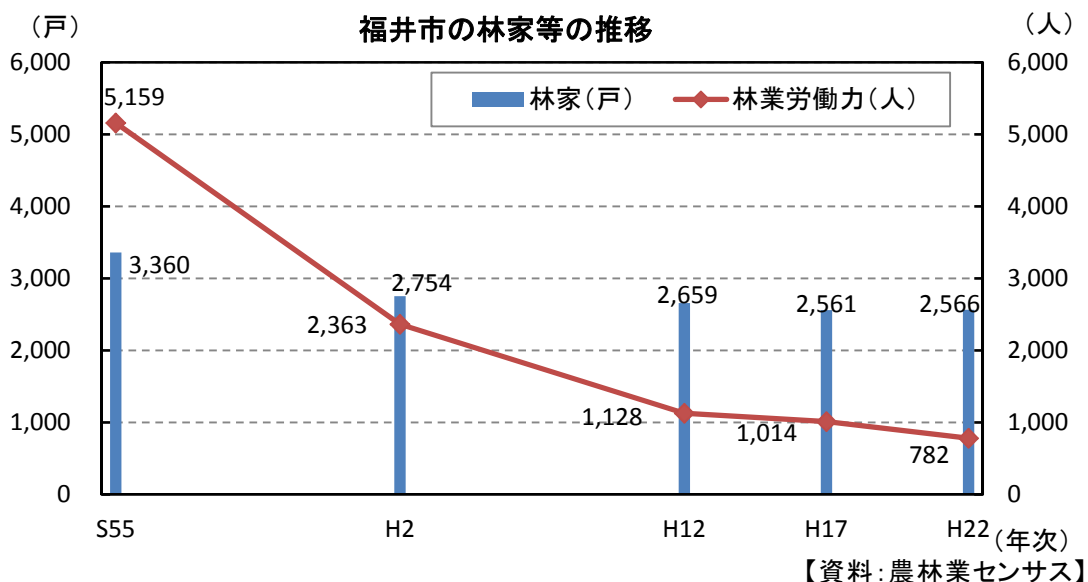
*1 民有林：個人や会社などが所有する私有林と県や市などが所有する公有林をあわせたもの

本市の人工林のうち、除間伐実施の対象である 11～80 年生（3～16 齢級*2）のスギ人工林は 15,183ha（8 割）となっています。



(3) 林家等の推移

本市の林家*3 戸数は平成 22 年 2,566 戸あり、平成 12 年以降ほぼ横ばいで推移しています。しかし、林業労働力*4 は 782 人で平成 12 年当時の 69.3% と減少しています。



*2 齢級：林齢を 5 カ年にくくった単位（林齢 1～5 年生までを 1 齢級）

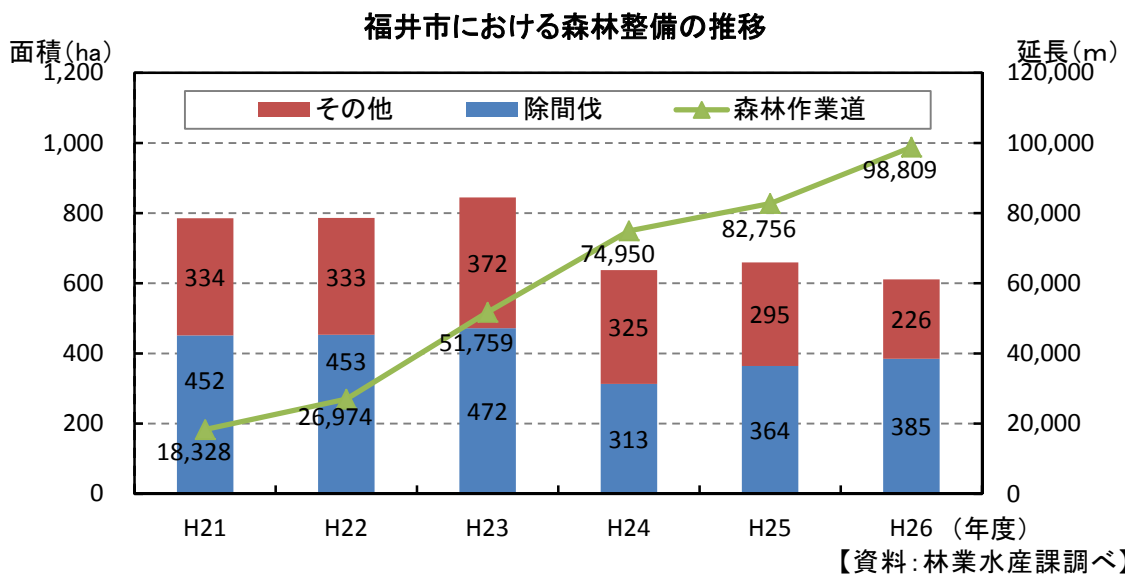
*3 林家：山林を所有する世帯（保有山林面積が 1ha 以上の世帯）

*4 林業労働力：過去 1 年間に自分の家の林業やよそに雇われて林業の作業に従事した世帯員数

2. 林業の現状

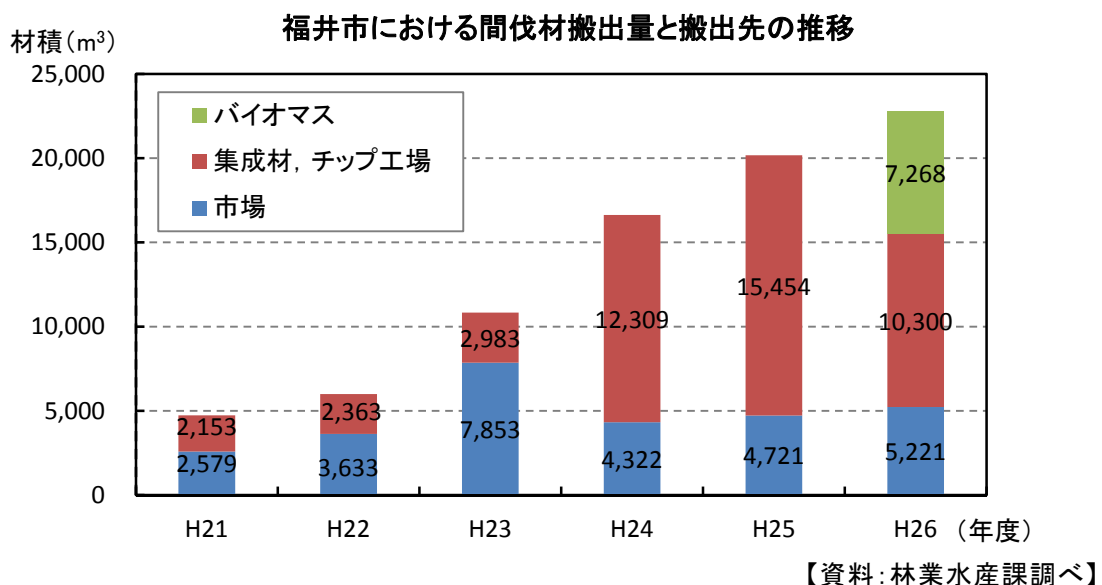
(1) 森林整備面積の推移

本市における森林整備の中心は除間伐で整備面積全体の約 50%を占めています。また、間伐材の搬出を効率よく行うため森林作業道の整備実績を比較すると、平成 21 年度の 18,328m から平成 26 年度の 98,809m へ 5 倍以上増えています。森林整備における森林作業道の重要性が高まる傾向があります。



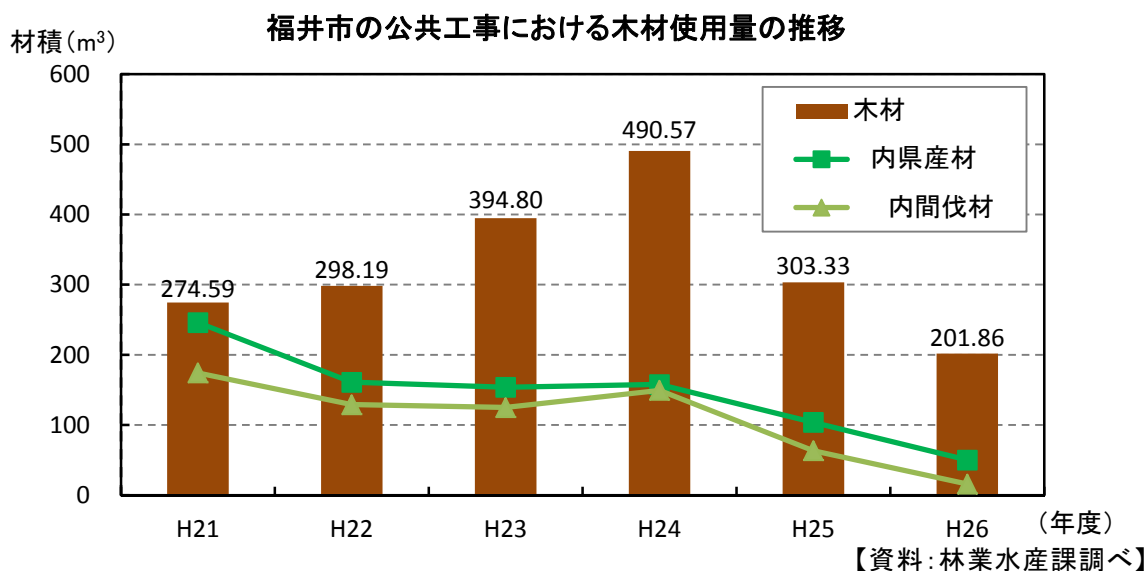
(2) 間伐材搬出量の推移

平成 24 年度以降、切捨て間伐から搬出間伐へとシフトが進み、搬出量が増加しました。搬出される間伐材もそれまでの A 材 B 材だけでなく、C 材も搬出されるようになりました。搬出先も A 材 B 材が出材される市場や集成材工場に加えて、チップ工場や平成 26 年度からバイオマス発電所（燃料用材としてストック。平成 28 年度から稼働予定）に広がっています。



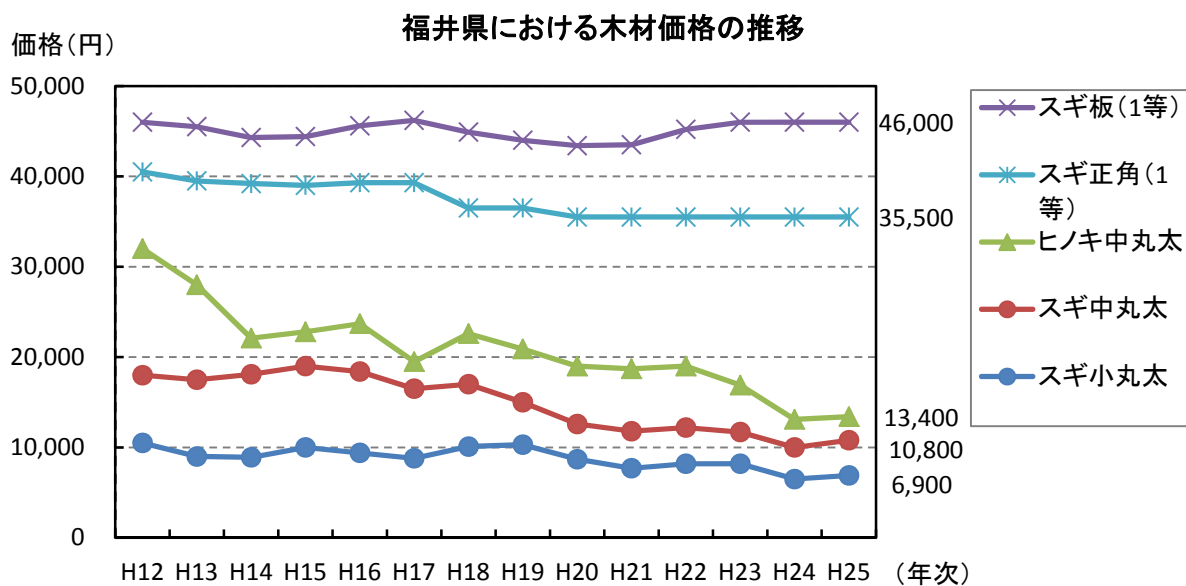
(3) 公共工事における木材使用量の推移

本市では、公共工事において木材使用量を高める取り組みを進めていますが、使用量は工事により増減しているところです。平成23年度は安居中学校の新築、平成24年度は中藤小学校の新築等があり、木材を多く使用するため使用量の実績が増加しました。しかし、大規模な工事が無い場合使用量は減少し、年間200m³程度の実績に留まっています。



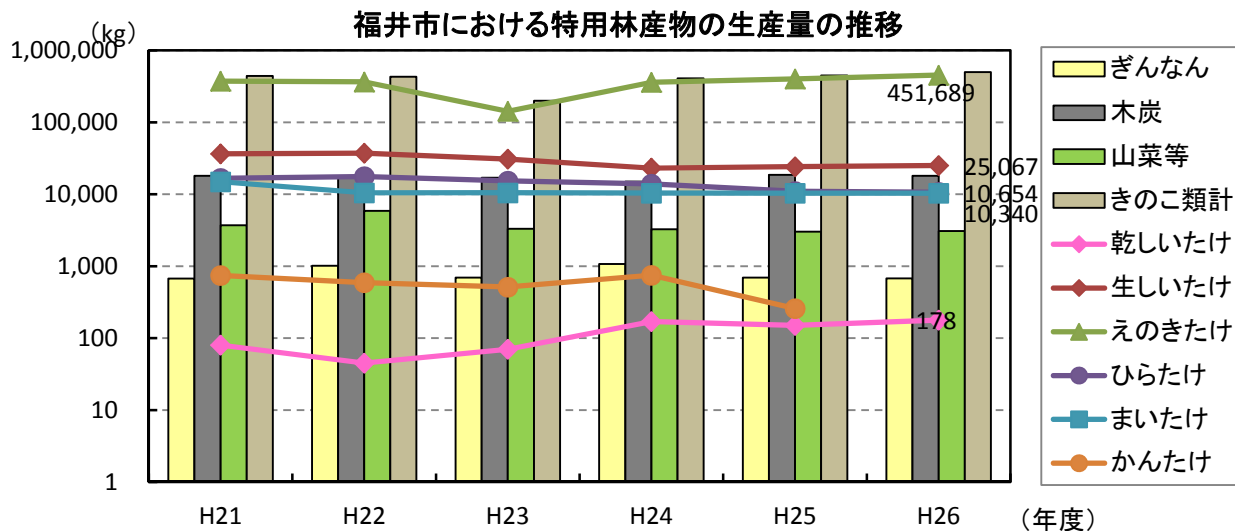
(4) 木材価格の推移

福井県における木材価格は下落傾向にあり、近年下落率が減少しているものの、特に丸太価格は下落が続いています。



(5) 特用林産物の推移

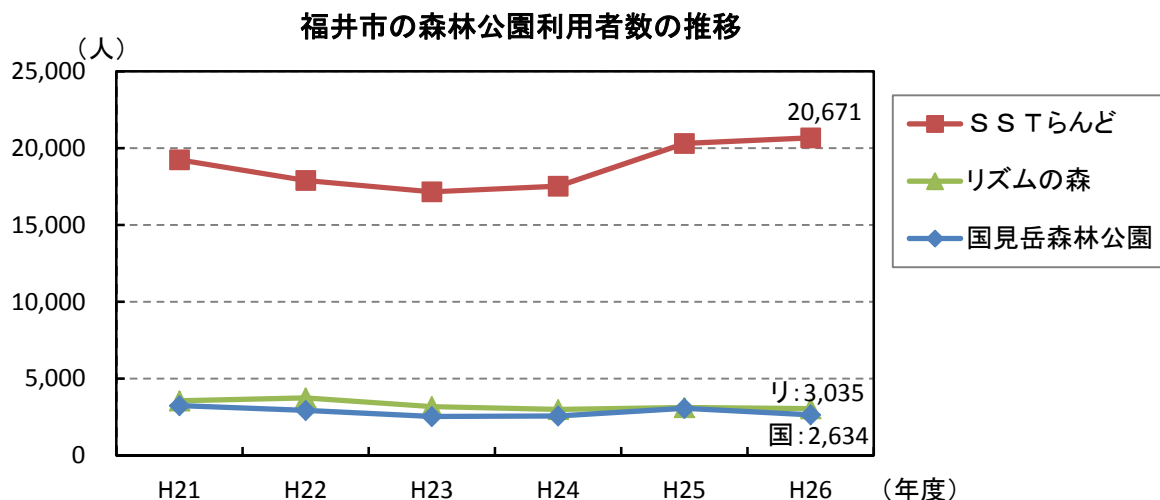
本市で生産される特用林産物はきのこ類が多く、全生産量の95%を占めます。なかでも生産量1位のえのきだけは、福井県内で生産される全量の99.9%になるほど、市内での生産規模が大きいです。



【資料: 林業水産課調べ】

(6) 森林公園利用者数の推移

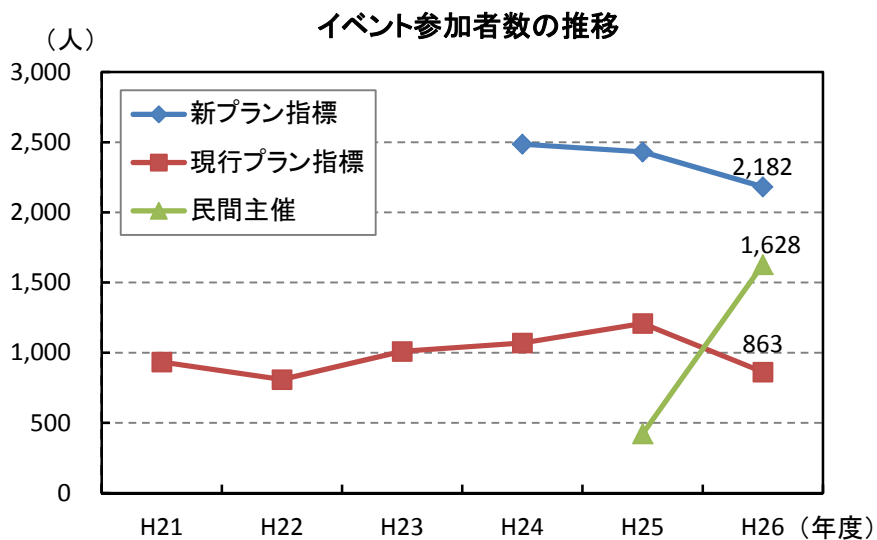
本市には、管理人が常駐する国見岳森林公園、SST らんど、リズムの森に加えて、平成26年度から全面開園した管理人がいない木ごころの森の4つの森林公園があります。管理人が常駐する施設は指定管理者制度が導入され、より利用される施設となるよう運営されています。しかし、連休や夏季休暇など利用者増が見込まれる時期に天候に恵まれず、利用者数が前年度割れする場合があります。



【資料: 林業水産課調べ】

(7) 森林・林業に関するイベント参加者数の推移

本市が開催するイベントの参加者数は、1,000 人前後で推移しています。一方、民間主催イベント*1参加者は増えています。また、本市だけでなく、県も携わるイベントも開催されており、裾野の拡大につながっています。



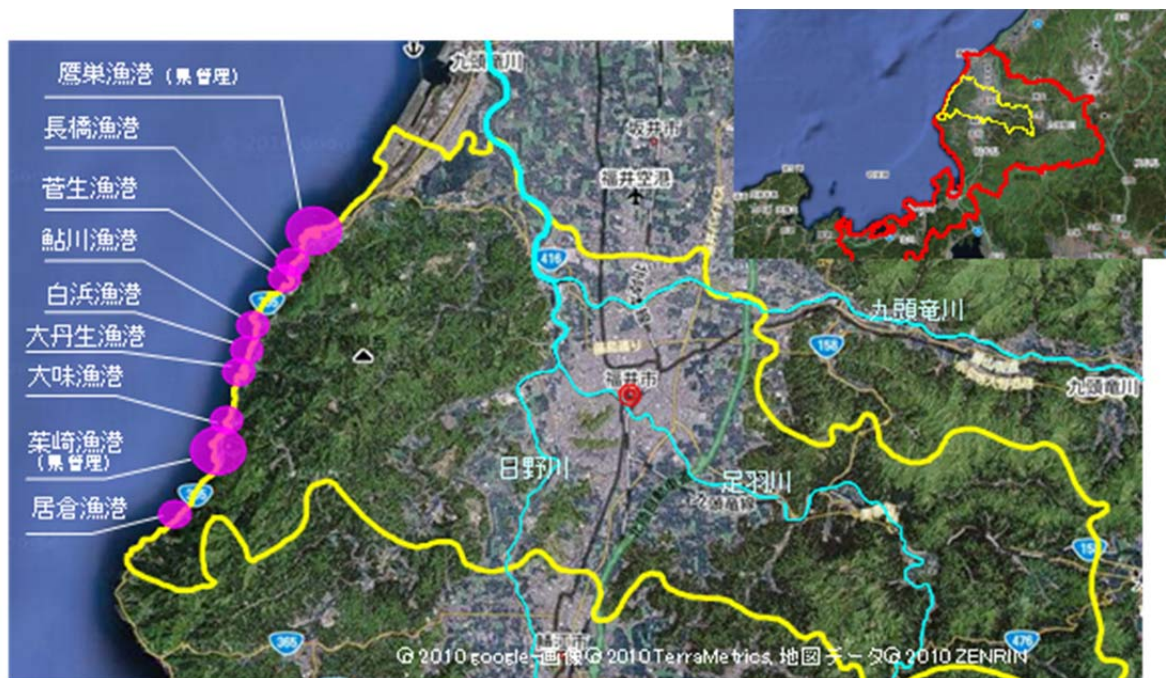
【資料：林業水産課調べ】

*1 民間主催イベント：NPO や地域の団体が主催する森林山村多面的機能発揮対策事業を活用した森林や林業に関する啓発活動

《参考資料 2》本市の水産業の概要

1. 水産業を取り巻く環境

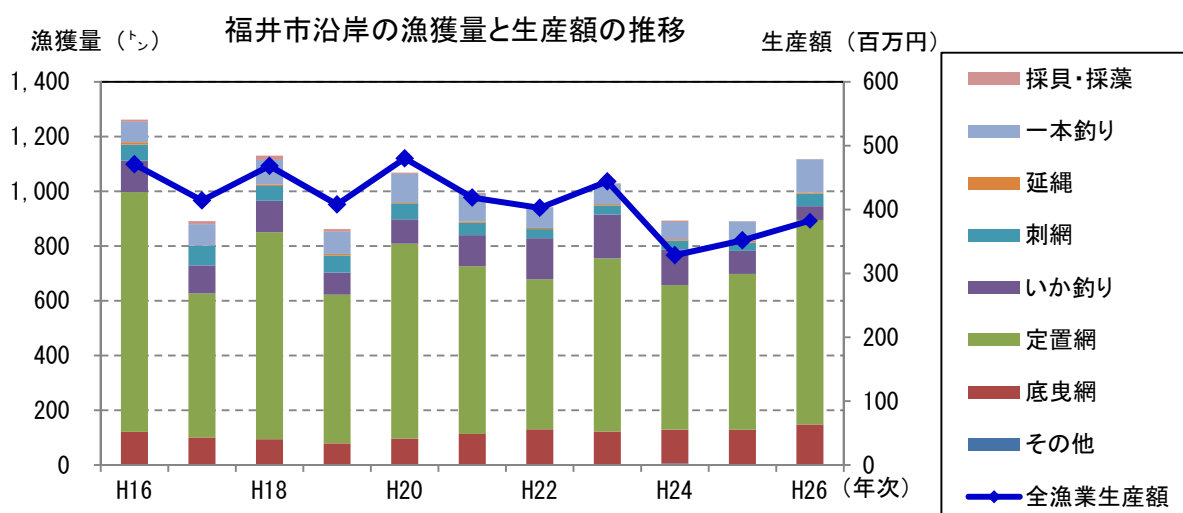
福井市の沿岸は、延長約 45km で屈曲が少なく外洋に面し、鷹巣漁港から北側は砂浜地帯、南側は岩礁地帯となっています。本市では県が管理する鷹巣漁港、菜崎漁港の他、市が管理する 7 つの漁港が整備されています。



2. 生産の現状

(1) 漁獲量および生産額

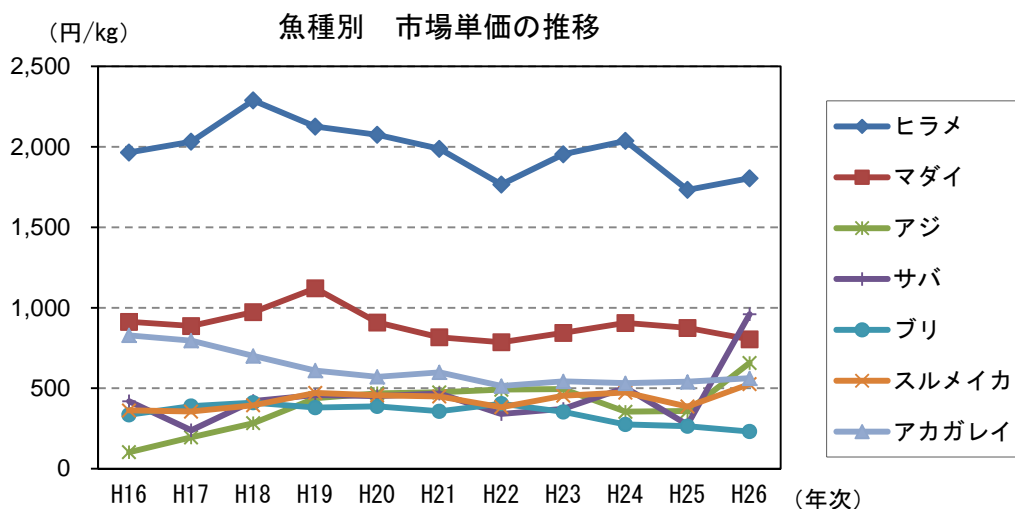
漁獲量は、平成 16 年以降、1,000 トン前後で推移しています。一方、生産額は、平成 16 年には 5 億 3,700 万円ありましたが、平成 26 年では 3 億 8,300 万円と 29%減少しました。また、漁業種類別では、定置網が漁獲量の過半数を占め、次いで底曳網となっています。



【資料：福井市・越廼漁業協同組合 業務報告書】

(2) 市場単価

福井市中央卸売市場での市場単価*1の推移をみると、平成16年では比較的価格の高かったヒラメ、マダイ、アカガレイの単価の低下傾向がみられ、平成26年にはそれぞれ8%、12%、32%下落しています。一方、全国的に漁獲量が減少しているアジ、サバは平成16年と比較し、平成26年の単価がそれぞれ638%、229%上昇しています。



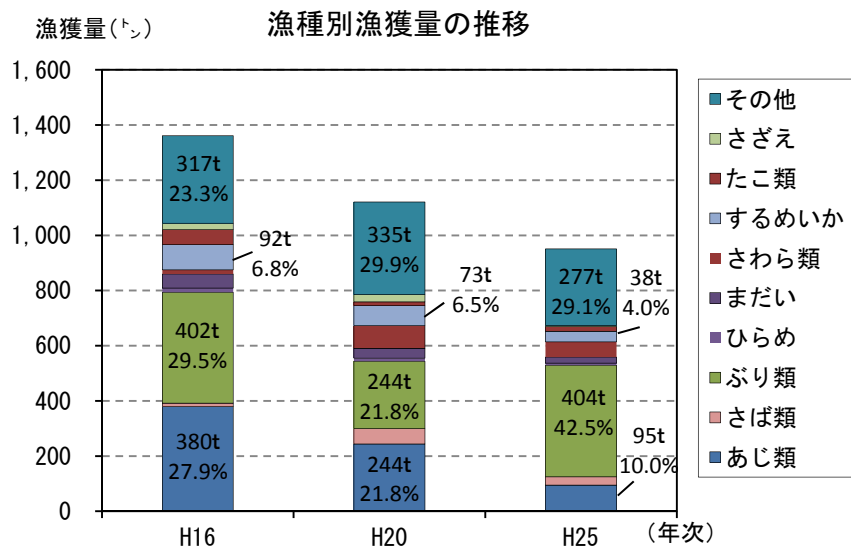
【資料：福井中央卸売市場統計データ】

*1 市場単価：市場での卸売取引価格を魚の重さ1kg当りで割り返した単価のこと。

(3) 漁獲魚種の構成

魚種ごとの漁獲量の推移をみると、ぶり類は漁獲量に変動はあるものの、定置網漁業で獲れる主要な魚種となっています。

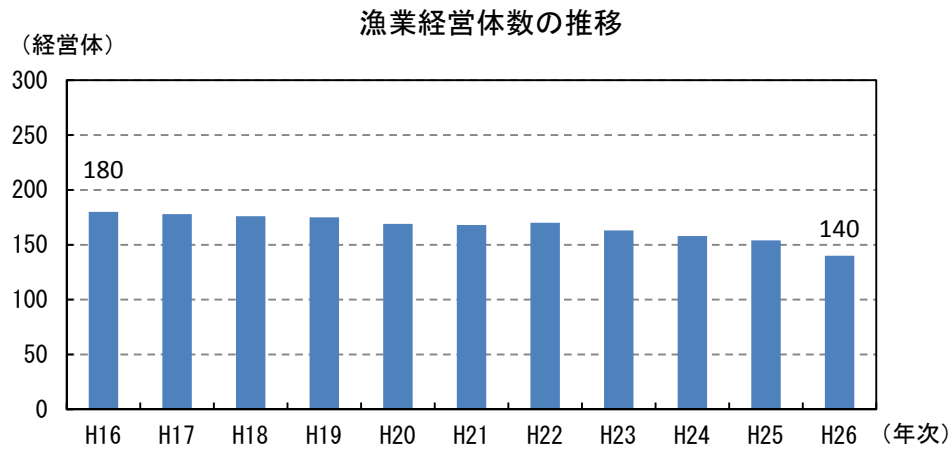
一方、あじ類、まだい、するめいかについてみると、平成16年と比較し、平成25年はそれぞれ75%、57%、59%の減少となっています。



【資料：農林水産省「海面漁業生産統計調査」】

(4) 漁業経営体数

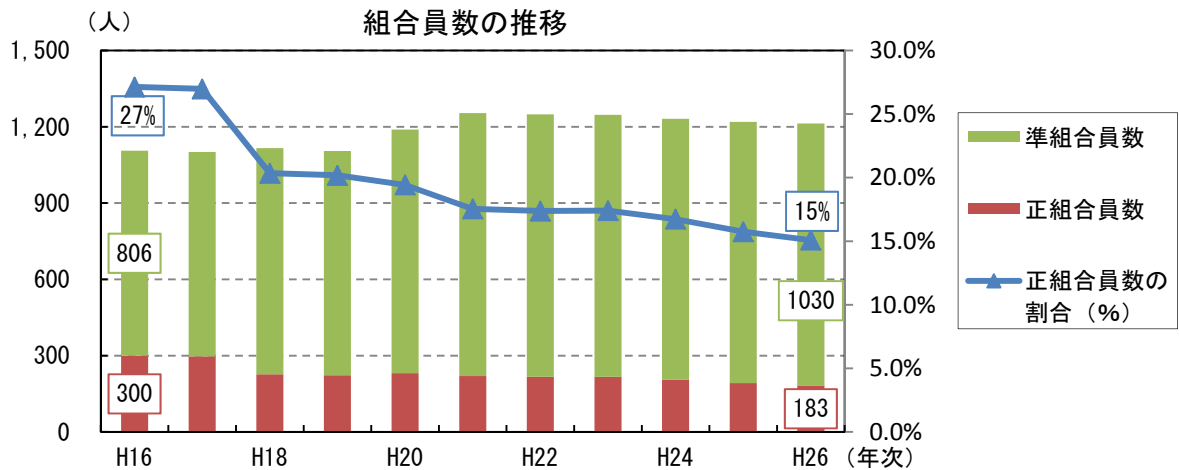
高齢化による廃業が増加したことから、平成16年には180経営体ありましたが、平成26年では140経営体に減少しています。



【資料：福井市・越廼漁業協同組合業務報告書】

(5) 漁業協同組合員数

組合員数（総数）は、平成16年と比べると若干増加していますが、正組合員*1から準組合員*2になる組合員が増加していることから、平成26年の正組合員は平成16年と比較し41%減少しています。また、組合員に占める正組合員の割合は15%となっています。



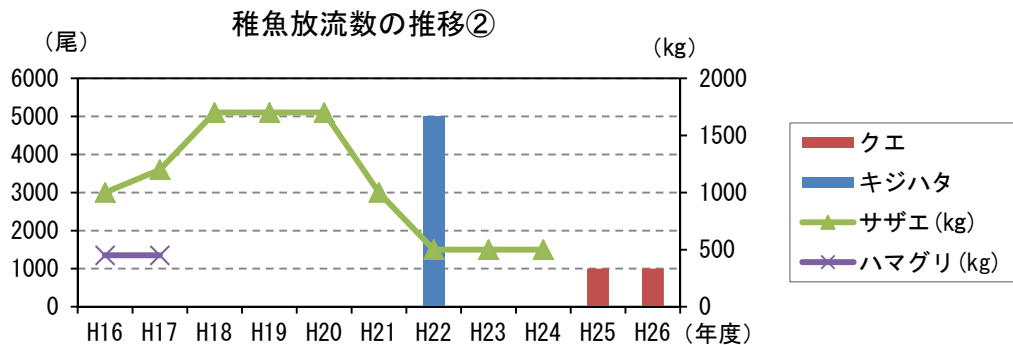
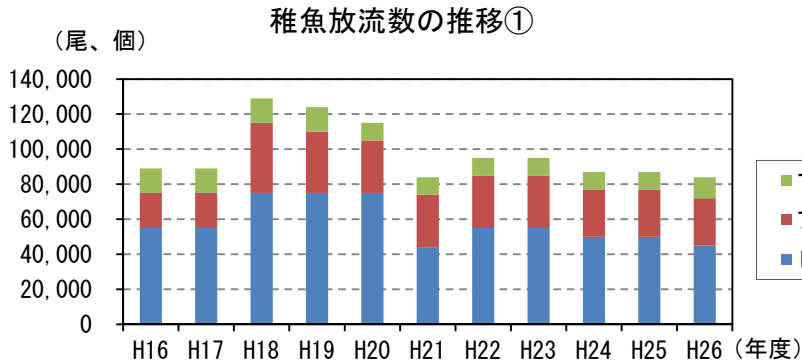
【資料：福井市・越廼漁業協同組合業務報告書】

*1 正組合員：組合の地区内に住所を有し、かつ、一年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民などのこと。

*2 準組合員：組合の地区内に住所を有する漁民で、正組合員以外の者などのこと。

(6) 稚魚放流数

現在、ヒラメ、アワビ、マダイの放流に加え、高級食材として扱われるクエの放流も実施しています。全体の放流数は平成 21 年度以降、おおむね横ばいで推移しており、平成 26 年度は 85,000 尾を放流しました。



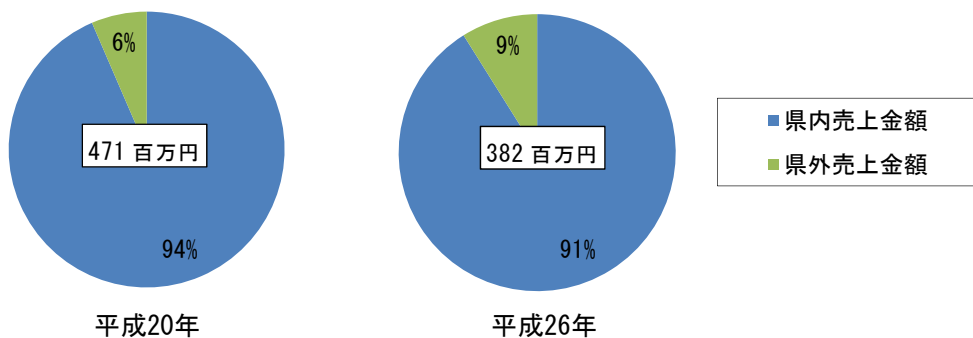
【資料：林業水産課調べ】

3. 流通の現状

(1) 福井市産漁獲物の県内外出荷状況

全体の出荷額は減少していますが、魚の需要の高い地域へのお荷が増えていることから、県外へのお荷額が増加しています。

福井市産漁獲物の県内外出荷状況（生産金額ベースで算出）

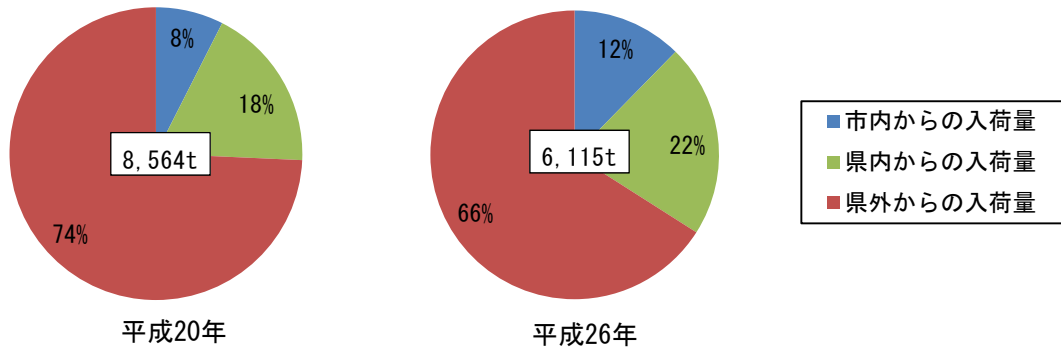


【資料：福井市漁協買入別統計表及び福井県漁連越前支所越廼出張所取扱高表】

(2) 福井市中央卸売市場入荷状況

市場においては、県外の入荷量が減少していることから、相対的に市内、県内からの入荷割合が増加しています。

福井市中央卸売市場入荷状況（入荷重量ベースで算出）

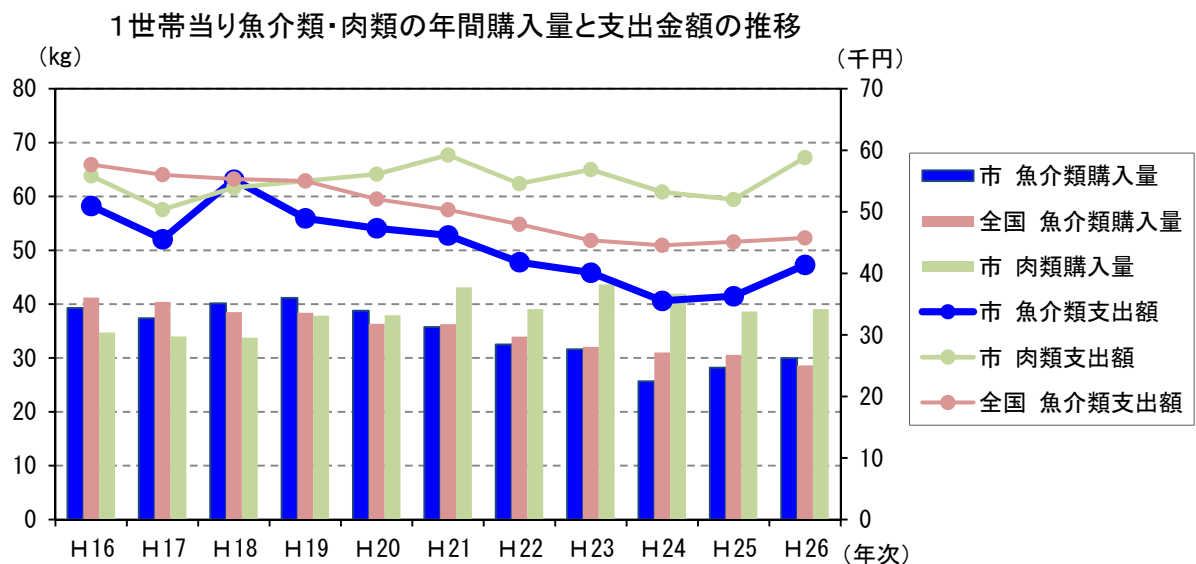


【資料：福井市中央卸売市場データ】

4. 消費の現状

(1) 魚介類の消費量

1世帯当りの年間魚介類の消費量は、平成16年に比べて、魚介類の購入量が24%、支出額が19%減少と、長期的な減少傾向がみられますが、平成25年度からは回復傾向にあります。



【資料：総務省統計局「家計調査（家計収支編）」】

◇ 福井市林業・水産業プラン策定の経過

平成 27 年 5 月 18 日 第 1 回福井市総合農政推進会議
 7 月 29 日 第 1 回（仮称）福井市林業水産業プラン策定部会
 8 月 24 日 第 2 回（仮称）福井市林業水産業プラン策定部会
 9 月 26 日 第 3 回（仮称）福井市林業水産業プラン策定部会
 平成 28 年 2 月 12 日 第 2 回福井市総合農政推進会議
 2 月 19 日 福井市総合農政推進会議より市長へ、プラン(案)答申
 2 月 25 日 プラン決定

◇（仮称）福井市林業水産業プラン策定部会 委員名簿

	氏 名	所 属	分 野
部会長	富 永 修	福井県立大学 海洋生物資源臨海研究センター センター長	水産業
副部会長	石 垣 浩 司	国立研究開発法人 森林総合研究所 森林整備センター 福井水源林整備事務所 所長	林 業
委 員	青 木 幸 夫	JA 越前丹生 特産販売部 丹生膳野菜 店長	水産業
〃	井 上 幸 喜	福井市中央卸売市場協会 会長	水産業
〃	江ノ畑 一郎	丹生郡森林組合 代表理事組合長	林 業
〃	北 崎 壽 男	越廼漁業協同組合 代表理事組合長	水産業
〃	木 村 次 郎	永和住宅株式会社 設計積算工事部 次長 (県産材住宅コーディネーター)	林 業
〃	佐々木 京美	食工房 野の花 (6次産業化プランナー)	水産業
〃	豊 岡 北 士	福井市森林組合 代表理事組合長	林 業
〃	中 野 治 一	福井県漁業協同組合連合会 専務理事	水産業
〃	平 野 仁 彦	福井市漁業協同組合 代表理事組合長	水産業
〃	藤 井 貴 子	福井県こども NPO センター 事務局長 (ネイチャーゲームリーダー)	林 業
〃	八 杉 健 治	高田木材生産組合 組合長 (福井県指導林業士)	林 業
〃	山 村 達 夫	福井県木材組合連合会 高志支部 支部長	林 業
〃	渡 辺 一 夫	美山町森林組合 代表理事組合長	林 業
オブザーバー	鈴 木 聖 子	福井県農林水産部水産課 参事	水産業
〃	三 浦 由 洋	福井農林総合事務所 林業部 部長	林 業



福井市農林水産部林業水産課
〒910-8511
福井市大手3丁目10番1号
TEL:0776-20-5430
FAX:0776-20-5752
E-mail:rinsui@city.fukui.lg.jp